

5 令和3年度 学校評価報告書(実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月25日実施)	総合評価 (3月28日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	① 生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養を目指し、多様な学習活動において深い学びを実現していく。	① 知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等、育みたい三つの資質・能力の育成に向けて、探究的な学びを推進し、相互の関連性を図るとともに、組織的な授業改善を多面的に進めていく。	① 校内授業研究テーマを踏まえた教職員研修会や公開研究授業を積極的に行い、組織的な授業改善を実施する。 ①-2 探究的な学び「KU(光陵ユニバー)」の充実、ICTを活用した学びの充実を図る。	①-1 魅力と特色アンケート「思考力・判断力・表現力を高めることができたか」の肯定項目が92%以上か。 ①-2 生徒による授業評価(授業の在り方についての3項目)の「かなり当てはまる」が5割以上か。	①-1 定期的な教職員研修会の実施及び県指定校事業である「教育課程研究開発校(新たな学習評価に係る研究)」における教育活動の公開を1月20日に実施した。 ①-2 新型コロナウイルス感染症や研究時間を確保する関係から、i-ハーベスト発表会に出場する代表生徒を2年生から3年生に変更することで、より探究が深まった。	①-1 魅力と特色アンケート「思考力・判断力・表現力を高めることができたか」の肯定項目は80.6%で目標未達成だった。さらなる組織的な授業改善が必要である。 ①-2 生徒による授業評価は、授業の在り方についての3項目の「かなり当てはまる」の割合は44%だった。3年生のみでは49%だった。	①-1 制限された中でも組織的な授業改善が継続的に行われている。 ①-2 目標の5割到達達成のため、引き続き学びの充実を進めてほしい。	①-1と2 オンライン授業、対面授業、オンデマンド配信など多様な授業スタイルを確立できた。その中で主体性を育む授業を研究していく。	①-1と2 令和4年度より指定を受けたSTEAM教育に取り組む中で、組織的な授業改善を実践し、目標達成を目指す。
	② 横浜国立大学との中・高・大連携型教育の一層の充実を図る。	② 中高大連携作業部会の活動を通じて、県立高校改革実施計画に示された中高大連携を充実・発展させる。	② 横浜国立大学教育学部附属横浜中学校との研究活動や教職員交流等を通じて連携の理念を共有する。また、横浜国立大学との連携を一層深める。	② 横浜国立大学との連携の充実が図れたか。	② i-ハーベスト発表会が横浜国立大学教育学部附属横浜中学校を会場として行われ(生徒や関係者にはオンラインでライブ配信)、探究活動の取組状況について情報を共有することができた。附属小学校・中学校との合同研修会をオンラインで実施し、教職員間で交流を深めた。	② 探究活動に関連した連携に加え、教科学習に関する連携についても議論を深め、実践につなげる。	② コロナ禍でもオンラインで実施できてよかった。職員のみめ細やかな対応に感謝している。	② 対面での活動が制限されても、交流や連携を実施することができた。行事以外でも連携できる工夫を模索する。	② オンライン環境での交流や連携をさらに深める工夫を行う。
2	① 生徒会活動、部活動の充実をさらに図り、リーダーシップと協働し支える力を育む。	① 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、これまでの教育活動を継承しつつ新しい形を作れるよう体制づくりを進める。	① 制約を創意工夫で乗り越え、生徒の心身の状況や教職員の働き方に留意し、計画的に支援・指導を行う。	① 学校生活アンケートで「学校行事」及び「部活動に満足している」の肯定項目が8割以上か。	① 「部活動」の加入率は93%だった。	① 耐震工事に伴う施設面での制約、コロナ禍に伴う短時等の制限の中で、活動場所、活動方法を工夫する。	① 感染対策を講じ、限られた中で活動を工夫している。	① 施設面とコロナによる制限の中でも工夫して活動できた。	① 施設面での制限は、周辺の他施設の活用などを進める。
	② 学校行事等において、生徒一人ひとりが高い目標を持ち、主体的に参画していけるよう支援を行う。	② これまでの学校行事を継承しつつ、新しい形を作れるよう、生徒が他者と協働して主体的に取り組めるよう支援する。	② 生徒の主体的な行事運営(体育祭、光陵祭、学芸音楽祭)のために、ホームルーム活動の充実を図り、かつ生徒会・各種委員会と教職員の連携を密にする。	② 学校生活アンケート「体育祭」「光陵祭」「学芸音楽祭」の肯定項目が8割以上か。	② 「体育祭」は、実行委員会を中心に取り組み、成功を取めた。「光陵祭」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となった。	② 学校生活アンケートの体育祭の肯定項目は競技の完全実施が出来ない影響で66%だった。	② 学芸音楽祭は感染対策を万全にして、校内で実施までこぎつけたことは良かった。	② 体育祭、学芸音楽祭を実施することができた。中止とならないように多様な側面でも計画する。	② 三大行事の完全実施に向けた課題を確実にクリアしていく。
	③ 生徒一人ひとりに応じた支援を行う。	③ 支援が必要な生徒の状況を把握し、外部人材の活用も図りながら、個別支援に向け組織的対応を進める。	③ 学年や部活動、教科・科目等多面的な視点で生徒状況の把握を行い、担任・副担任、教科担当及びSCやSSWとの情報共有を促進する。	③ 生徒状況の把握について、情報共有が図れたか。	③ 定例の学年会議で情報共有を図り、ケース会議を開催するなど生徒支援に努めた。	③ 引き続き教職員間の情報共有を充実させる。	③ 引き続ききめ細かい生徒支援の継続をお願いしたい。	③ 生徒支援を最優先にしたきめ細やかな対応ができた。ICTなど活用してさらなる情報収集を行う。	③ 正確な情報共有と、ぶれない生徒支援の在り方を追求する。
3	① 高大接続改革(高校教育、大学入学選抜、大学教育)を見据えて、総合的な探究の時間をはじめとした教育活動を展開し、生徒による自己の在り方生き方の探究を支援する。	①-1 高大接続改革に係る情報収集、実施し、生徒が自身の生涯を見通して考えることができるように、キャリア教育を実施する。 ①-2 第一志望を諦めさせないよう3年間を見通した進路支援を計	①-1 各教科・科目等を始めたすべての教育活動において生徒のキャリア形成につながるようキャリア教育、ガイダンス機能の充実を図る。 ①-2 生徒が希望する進路の実現に向け、生徒・保護者対象のキ	①-1 魅力と特色アンケート「キャリア教育を受けたことにより、自分が成長できたと思うか」の肯定項目が83%以上か。 ①-2 キャリアガイダンスや夏期講習等、生徒のキャリア形成や学力向上等を目的とした取	①-1 各教科・科目等をはじめ、すべての教育活動において、生徒のキャリア形成につながるような支援を組織的に実施した。 ①-2 夏期講習や動画によるキャリアガイダンスの実施を通し、生徒のキャリア形成や学力向上を図った。	①-1 魅力と特色アンケート「キャリア教育を受けたことにより自分が成長できたと思うか」の肯定項目が72.8%だった。 ①-2 生徒が最も希望する進路を実現することができるよう、3学年職員とキャリアグループが協働し、組織	①-1 国公立大学への進学を希望する生徒への支援が充実し、実を結んできた。 ①-2 教職員の組織的な支援が生徒の進路希望の実現に寄与している。 ①-3 教員を目指す生徒の増加に伴うニーズに対応できて来ている。	①-1と2 キャリア教育の組織的な対応が生徒の進路実現に繋がった。 ①-3 学校設定科目「教職基礎」を開始することができた。履修できない生徒においても教職を目指すための支援を拡げている。	①-1と2 グラデュエーションの達成を目指し、キャリアグループを中心として多様なキャリア教育を推進していく。 ①-3 「教職基礎」科目の成果と課題を検証しながら改善を図る。

		画・実施する。 ①-3 進路指導と教科指導の接続を意識する。	キャリアガイダンスや、夏期講習等、生徒のキャリア形成や学力向上等を目的とした取組を実施し、教職員の情報共有を促進する。 ①-3 教職員を希望する生徒のために学校設定科目「教職基礎」を設定する。	組が、多面的に行われたか。 ①-3 学校設定科目「教職基礎」において多面的な指導ができたか。	①-3 学校設定科目「教職基礎」を32名の生徒が履修しているとともに、横浜国立大学教育学部によるガイダンス等、教職に関わる様々な取組に、多くの生徒が参加した。	的な支援を続けていく。 ①-3 引き続き、「高校生のための教職セミナー（総合教育センター主催）」等、教職に関わる様々な取組を実施していく。				
4	地域等との協働	① 地域との連携を推進することで、多様性を尊重し、生徒の社会性や協働する力を育む。	①-1 新型コロナウイルス感染症の影響がある中で新しい地域貢献の形を模索する。引き続き、生徒の社会性、協働する力を養う。 ①-2 本校の教育活動を外部に広く発信していく。	①-1 近隣学校との交流事業や、地域貢献活動を継続して実施し、コミュニケーション能力の育成と他者理解を深める。 ①-2 学校説明会やホームページ等を活用し、総合的な探究の時間を含めた本校の教育活動についての情報発信を行う。	①-1 参加した生徒が、自己肯定感、協働、活動の楽しさ等の満足感を得ることができたか。 ①-2 学校説明会等におけるアンケートにおいて「本校の教育活動への理解」等に関する肯定項目が80%以上か。	①-1 保土ヶ谷養護学校との交流は、1・2学年合同でオンラインで実施した。地域貢献活動は中止となった。 新型コロナウイルス感染症予防のため、地域連携活動の一つである光陵セミナーは中止となった。 ①-2 新型コロナウイルス感染症予防のため、学校説明会は規模を縮小して実施、代わりに学校ホームページによる情報発信を充実させた。	①-1 新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、今後どのように実施していくか検討する。 新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、今後どのように地域連携活動を実施していくか検討する。 ①-2 新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、今後どのように説明会を実施していくか検討するとともに、学校ホームページのさらなる充実を図る。	①-1 コロナ禍でも交流ができたことは生徒のモチベーションの向上につながったのではないかと。 ①-2 光陵高校の魅力と特色を創意工夫で上手く伝えることができた。	①-1 オンラインでも交流等を実施すれば、成果が期待できることを確認できた。学年や部活動以外の交流を模索する。 ①-2 対面による説明会の実施がいかにか有効であるかを再確認できたが、ホームページの充実を図り、学校の魅力を発信していく。	①-1 どのような形でも実施できるよう工夫する。 ①-2 対面での説明会参加者を増やす工夫を講じる。
5	学校管理 学校運営	① 学校が目指す姿を共有し、その実現に向けて協働して取り組める組織とする。 ② コミュニティスクールとして、学校運営協議会委員会の意向を踏まえ、よりよい教育環境を整備する。	①② 事故防止を徹底するために、職員間のコミュニケーションに努め、情報共有を図る。	①② 多様な教職員研修を実施し、中堅教員、ベテラン教員の経験を生かした若手教員のサポート体制及び学校運営協議会の意向を踏まえ、よりよい環境づくりに努める。	① 教職員研修の実施回数が12回以上か。 ② 教職員への情報発信に努めるとともに、学校から外部への情報発信を推進する。	①② 各教科研修、人権研修、新カリキュラムに関する研修を実施した。	① 月1回以上の研修会の実施を継続する。 ② 打ち合わせ掲示板による情報へのアクセスが「見える化」されてきている。 引き続き共有レベルの向上を図る。	①職員の資質向上に向けた取組が充実している。 ②情報共有がスムーズに行われる環境が整ってきている。	①②研修の成果が、授業実践や生徒対応に表れた。 ICTの利用や設定時間など研修会の計画を再検討する。	①②質の高い研修会を定期的に実施する。職員が今後の計画をしやすい行事予定を作成する。
		③ 生徒が安心して通うことのできる体制を作る。 ④ 耐震工事の機会を利用し、教育環境の整備を行う。	③ これまでにない対応が迫られる中で教職員のレジリエンスに対する理解を深める。 ④ 耐震工事中の安全確保と良質な学習環境を整備する。	③ 生徒の状況把握や教職員の連絡体制を充実させる。 ④ 耐震工事での教育活動にできるだけ支障のないよう関係機関との調整を行い、安全安心で快適な学習環境づくりに努める。	③ レジリエンスに対する理解を研修や情報提供によって深めることができたか。 ④ 耐震工事中の学習環境を整え、生徒の安心安全を確保することができたか。	③ 生徒の状況把握や教職員の連絡体制を充実することを継続中。レジリエンス力向上のため、保健委員会や有志が実施した東日本大震災に関する講話や交流についての録画を1,2学年全員が視聴し、感想等について講師に送った。 ④ 耐震工事での教育活動にできるだけ支障のないよう関係機関との調整を行い、安全安心で快適な学習環境づくりに継続中である。	③継続して多面的な生徒把握に努める。 ④耐震工事中の学習環境を整え、生徒の安全安心を確保しているが、時々工事の音が気になる時がある。	③生徒の安全安心を確保しながら引き続き、教育環境の整備に努めてほしい。 ④次年度の体育館修繕工事による部活動環境の制約を最小限にする工夫が必要である。	③多様化・複雑化する生徒対応に適切にアプローチできた。 ④生徒の安全安心を確保しながら教育活動を行うことができた。	③生徒状況を様々な方面からの見方・考え方で正確に把握し情報共有する。 ④体育館修繕工事に伴う教育活動の低下を最小限に留める。
		⑤ 生徒と向き合う時間を確保するために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	⑤ 働き方改革を推進し、長時間勤務を是正する。	⑤ ICT利活用を推進し、教職員の報告・連絡・相談体制を整備及び勤務時間内の会議の徹底を図る。	⑤ 教職員がICT利活用等により、組織的な学校運営と校務の効率化が図られたと実感できたか。	⑤ 打ち合わせ内容のデジタル化により、会議時間の短縮を達成した。	⑤ICT利活用技術の習得と向上を図る。	⑤ICTの利活用により教職員の働き方改革（テレワーク等）が進むのもよい。	⑤ICTの利活用が学校業務の様々な場面で進み業務の効率化が進んだ。	⑤ICT利活用をさらに進め「働き方改革」を推進する。